

経営発達支援計画

H30年度 伴走型小規模事業者支援推進事業

地域経済動向調査レポート

～京丹後市版～

(平成30年1月～3月期調査)

京丹後市商工会

～例年を上回る降雪が原材料等の高騰を加速させ全業種で悪化した産業景況～

<調査概要>

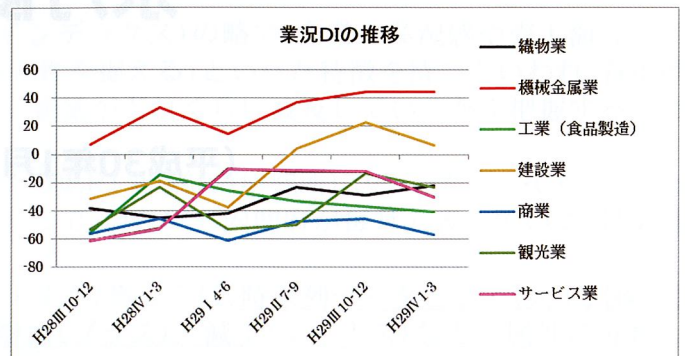
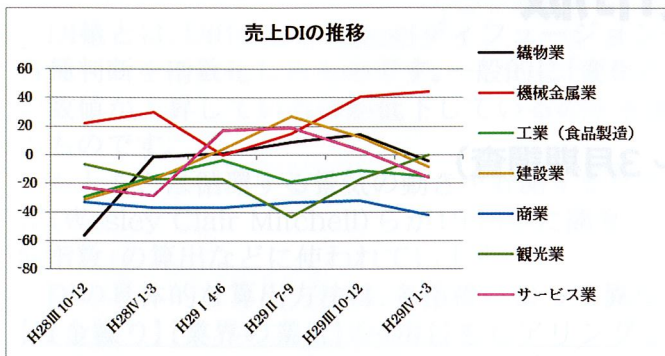
調査対象: 地域内の小規模事業者等105件

調査期間: 2018年1月～3月

調査方法: 当商工会経営支援員による巡回ヒアリングによる調査票への選択記入式

<産業全体> 例年を上回る降雪が原材料等の高騰を加速させ全業種で悪化した産業景況

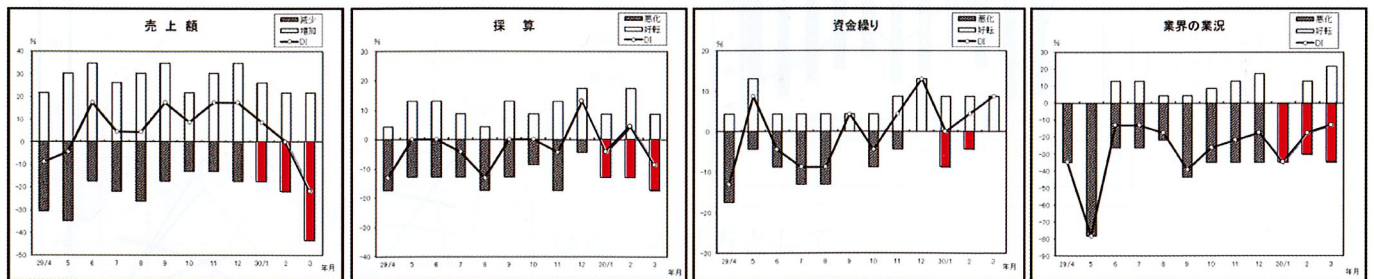
1月～3月の小規模事業者経済動向調査は、前四半期(H29.10～12月)と比較して、全ての項目について悪化に転じた。特に売上DIは、10ポイント以上の大幅に悪化した。業種別にみると、機械金属業と観光業は小幅改善している。全業種共通して、人手不足が根底にある中、例年を上回る降雪により、客足が鈍った上、原材料が高騰し消費が低迷したことや、仕入価格が高止まりしていることから、産業全体の売上、収益悪化を招いたと考えられる。



※上記グラフは、前々四半期、前四半期の該当DIの平均値を算出しグラフ化したもの

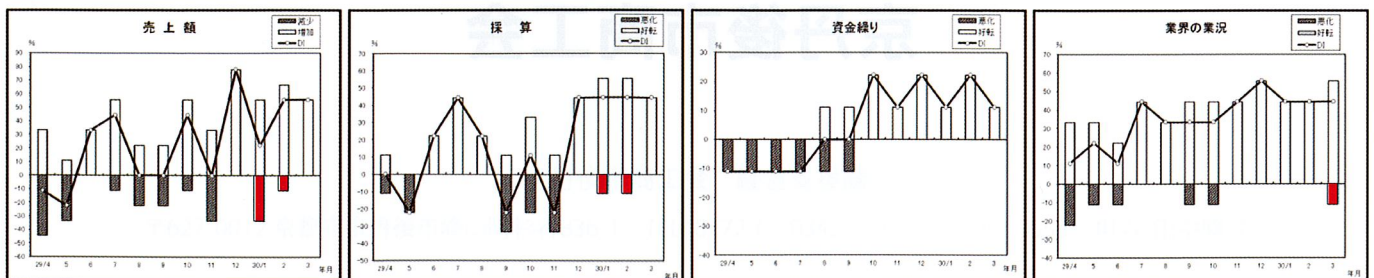
織物業 原材料高騰と、織手の高齢化を含めた人手不足によって低調水準が続く織物業

織物業は3月に入り、売上DI及び採算DIは悪化傾向の一方で、資金繰りDI及び業況DIは、低調ながら小幅改善を示した。前四半期との比較でも同様であった。経営支援員からは、積極的な設備投資による前向きな取り組みが一部で活発化している一方で、原材料高騰が激しく、織手不足も年々深刻化し、今後も加速するものと想定されることから、抜本的な経営改革に取り組みだしているとの報告があった。



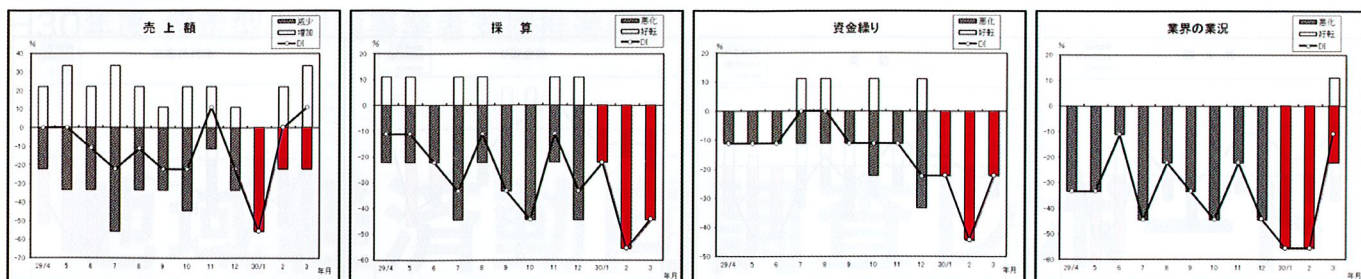
機械金属業 人手不足の問題を抱えながらも受注量の安定確保で好調を維持する機械金属業

機械金属業の全ての項目DIは依然高い水準で推移し、好調をキープしている。前四半期との比較でも全項目において、横ばい若しくは改善を示し、売上DIと採算DIは3期連続で改善を示した。人手不足の問題を抱えながらも市内産業を牽引している一方で、経営支援員からは依然人手不足の顕著化と原材料の高騰によって、利益確保が厳しくなりつつあるとの報告があった。



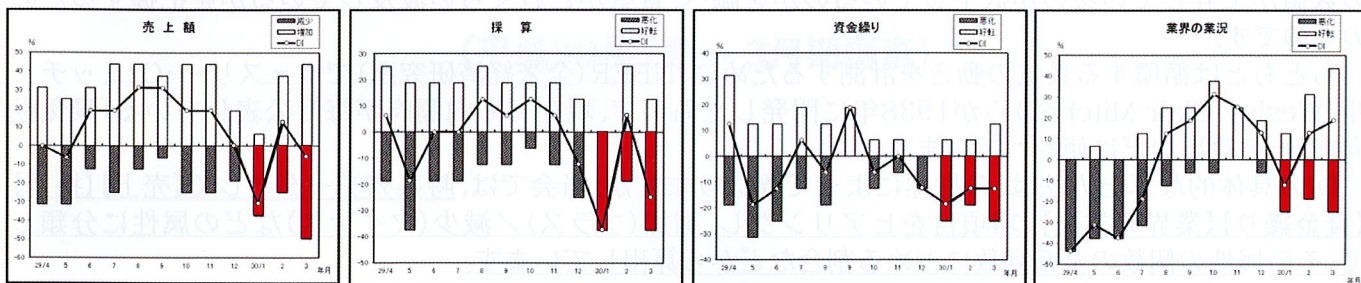
工業(食品製造) 例年になく大雪の影響と原材料高騰が重なり採算確保に苦慮する工業(食品製造)

工業(食品製造)は3月に入り、全ての項目で改善を示したが、前四半期と比較すると、全項目で悪化した。特に採算DIは15ポイントと大幅に悪化した。経営支援員からも、大雪による野菜高騰等を伴う材料仕入価格の上昇が採算を悪化させていることや、漁獲高の減少による生産量調整によって売上確保ができないといった大雪の影響で悪化を招いたとのコメントが目立った。



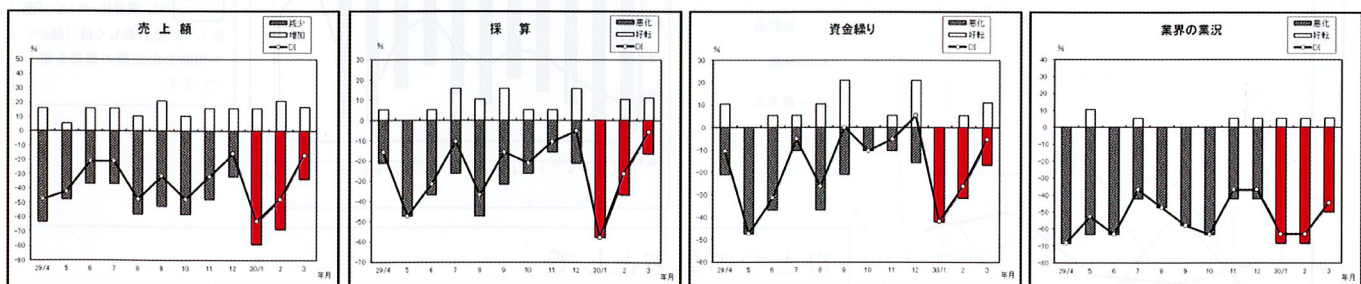
建設業 降雪や災害により一時的な繁忙を極めるも人手不足が足かせとなり利益確保が難しい建設業

建設業の業況DIは改善傾向のもの、前四半期と比較すると悪化に転じた。特に売上DIと採算DIは20ポイント以上大きく悪化に転じた。経営支援員からは、年度末を迎え災害関連や公共工事が売上増に貢献したが、大雪による除雪作業を慢性的な人手不足の中、優先した結果、利益に繋がらなかった。また他にも、除雪出動の回数が増え、燃料高騰の影響から低収益となったとのコメントが多く見受けられた。



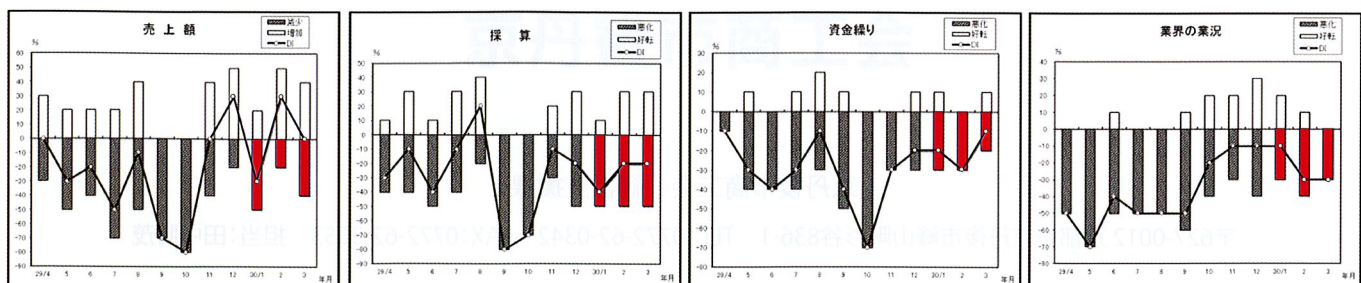
商業 季節需要も限定的であり、大雪や寒波により客足が伸びず厳しい状況が続く商業

商業は3月に入り、全ての項目において改善傾向であるが、前四半期と比較すると全項目、悪化した。1月の大雪の影響による大幅な悪化が本四半期全体を押し下げた。依然、業況DIは低水準で推移している。経営支援員からも、除雪関連や季節的需要が、一時的な売上増に貢献したが、例年を上回る大雪や寒波で、客足が鈍り、厳しい状況が続いているとの報告が多くあった。



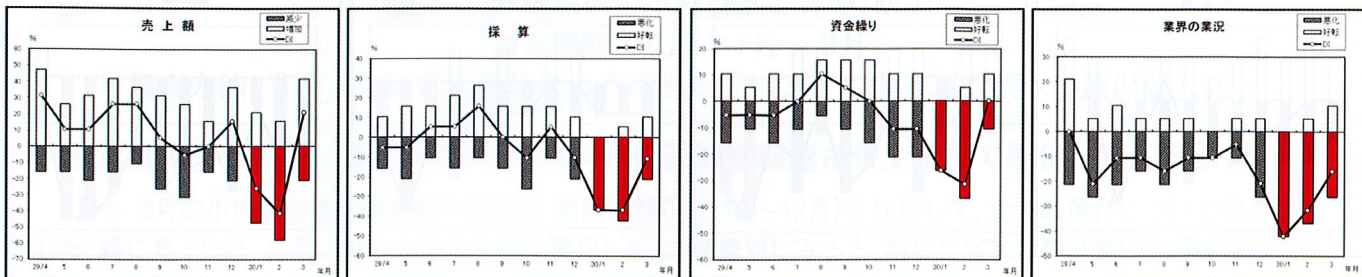
観光業 日帰り客が好調も、大雪によるキャンセルや原材料高騰に対応しきれず、苦戦が続く宿泊業

観光業の業況DIは横ばいに推移しているが、前四半期と比較すると悪化している。しかし、その他の項目は改善傾向で、特に売上DIと資金繰りDIは15ポイント以上の大きな改善を示している。経営支援員からは、悪天候や原材料高が進む中、常連客や日帰り客をうまく取り込み、健闘している事業者と対応できていない事業者との2極化が加速していて、昼食・宴会は好調となっている。しかしながら、全体的に宿泊面で苦戦が続いているとの報告があった。



サービス業(飲食店) 人手不足と原材料や燃料の高騰に、天候不順が重なり、伸び悩むサービス業

サービス業は3月に入り、全ての項目において改善傾向を示すが、前四半期と比較すると全項目において悪化している。特に採算DIは23ポイントと大きく悪化に転じた。経営支援員からは、1月、2月の大雪の影響で休業状態や臨時休業が相次ぎ、売上・収益確保が困難であった。3月に入り好調であったが、思っていたより客足も回復せず、原材料や燃料が高騰する中、収益確保が難しくなってきたとの報告があった。



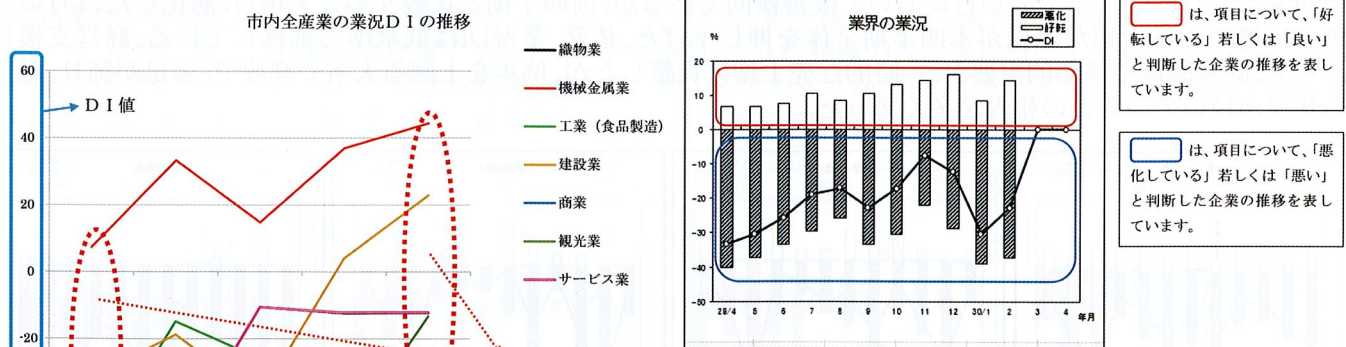
DI値とは

DI値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス)の略で、企業の業況感や売上額などの各種判断を指数化したものです。一般的に「変化の方向性を捉える」といった特徴を持つといわれ、各指標の数値が上昇しているのか低下しているのかを調べ、景気がどれくらい波及しているかを把握するためのものです。

もともとは循環する景気の動きを計測するために、NBER(全米経済研究所)でウェスリー・C・ミッチェル(Wesley Clair Mitchell)らが1938年に開発したもので、現在でも内閣府が毎月公表している「景気動向指数」の算出などに使われています。

DIの具体的な算出方法は、各指標によって異なりますが、当会では、時系列データとして【売上】【採算】【資金繰り】【業界の業況】の4項目をヒアリングし、増加(プラス)/減少(マイナス)などの属性に分類して、その属性の個数の全系列数に占める割合などから算出しています。

グラフの見方



ひとつの見方として
平成28年度の第Ⅲ四半期と比べて、赤点線部分が全体的に上に移動して、上下範囲が大きくなっています。

このようなことから、市内産業全体の業況は、全体的に上向き傾向の一方で、業種格差が広がっているということが読み取れます。

※ご注意して頂けなければならない点は、これらのDI値が「絶対」若しくは「正しい」というものではありません。あくまでも感覚的な指標であり、参考数値(材料)の1つに過ぎないことをご承知下さい。